# 木と直に

## ― 植木を誇る複合施設 ―

*Keywords*
植木　地域活性化　雑木林
薪　複合施設

DZ18128　　及川　就斗

### 1.　はじめに

#### 1.1　研究背景と目的

私は「植木のまち」千葉県匝瑳市で育った。匝瑳市は植木の生産が盛んであり、植木の生産量、栽培樹種数、樹芸技術の高さは全国でもトップクラスとして知られている。しかし、身近にありながら地元の産業に関心を持たなかった。そこで、建築により植木と住民を密接にする場を設けることで植木を理解し、地場産業である植木を住民が誇ることを図る。

### 2.　研究の位置づけ

#### 2.1　植木産業の分類

植木産業は、生産・流通・植栽・管理の工程に分類される。しかしながら、消費者との直接的なつながりを持つ業者は一部である。したがって、植木の関心を高めるためにはそれぞれの工程に対し、消費者が直接生産者の情報を得られる仕組みが必要である。

#### 2.2　後継者不足

人口減少及び人口総数に対する農業従事者の割合低下より、農業従事者は減少傾向にあると言える。そして、農業従事者を年齢階層別に見ると、若年層が少なく高齢化していることから、後継者不足となっていることが把握できる。したがって、後継者の育成確保が必要である。

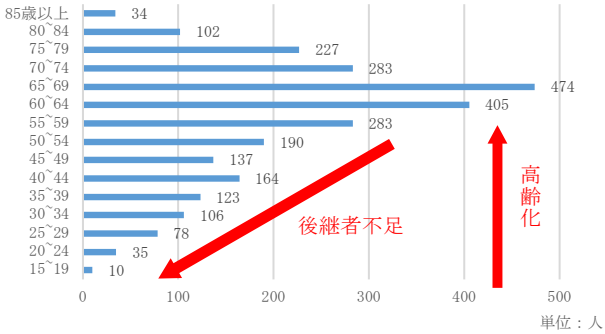



図１　匝瑳市の年齢階層別農業従事者数

#### 2.3　圃場の雑木林化

循環的な植木の生産とは、売れ残った木を掘取り等によって処分し、そこに新たな木を植えることで保たれる。しかし、処分に掛かるコストが高いことや高齢化による労働力不足等の理由により処分されるべき木が放置され、圃場の雑木林化が進んでいる。また、植木は栽培期間が長く生産のロスが発生しやすいため、マーケット需要に合った計画的な生産が課題となっている。したがって、循環的な生産を行うためには売れ残った木、雑木林の活用が必要である。活用法として、薪に加工することやチップ化する手法が挙げられる。

#### 2.4　市外からの需要

平成19年以降海外における日本ブームを背景に、中国やＥＵ諸国等で庭園樹が利用されるようになり輸出が拡大した。それにより、海外の仲買業者が市内に訪れ植木の買付を行うようになったが、市外の宿泊先を利用されている。また、ＣＯＶＩＤ-１９の影響により人口密集地を避けた農村地域での自然、文化、人々との交流を楽しむ「グリーンツーリズム」に関心が高まっている。そこで、市内に植木を体感できながる宿泊できる施設を提案する。

#### 2.5　住民の過ごし方

匝瑳市は自営業の割合が高く、その方々にインタビュー調査を行ったところ、プライベートの時間が短く、かつその時間帯が仕事終わりの19時以降にあることがわかった。そこで、住民が憩い集まる場をつくることの可能性があると考える。

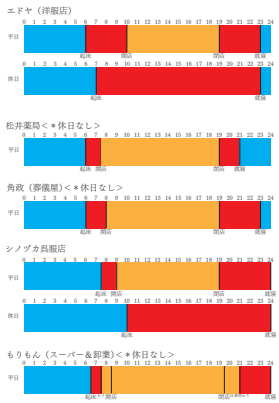


図２　自営業の方々の生活習慣

研究指導：岡野道子　特任准教授　　Shuto OYOKAWA

## 3.　計画概要

### 3.1 敷地

対象敷地は千葉県匝瑳市平木地区にある雑木林の一部とする。この雑木林は市内最大の面積になっており、敷地内には様々な樹種の木が生育している。また、周辺には田園が広がり、その中に雑木林や圃場も散見され、この地域特有の風景が見られるこの土地を対象敷地とした。

図３　対象敷地周辺

### 3.2 設計趣旨

雑木林となってしまった植木を活用し、木と直に触れる・見る等の体験ができる複合施設を設計する。また、銭湯を中心とした施設を提案することで、住民が夜に利用することも可能とする。木の葉や幹、色や形等の木についての情報量を得られる工夫をする。それにより、今まで一塊の群として認識されていた木が、多様な樹種の集まりとして認識できるようになり、日常にある植木を再認識できるようになると考える。また木を薪として買い取り、銭湯の熱エネルギーに変換するプログラムを構築することで、植木の循環的な生産を促す。

### 3.3 建築プログラム

敷地面積：19,957㎡
延床面積：4,418㎡
建築面積：4,024㎡
・銭湯　・ホテル　・レストラン　・研修施設
・ワークショップ施設　・セリ市場　・キャンプ場

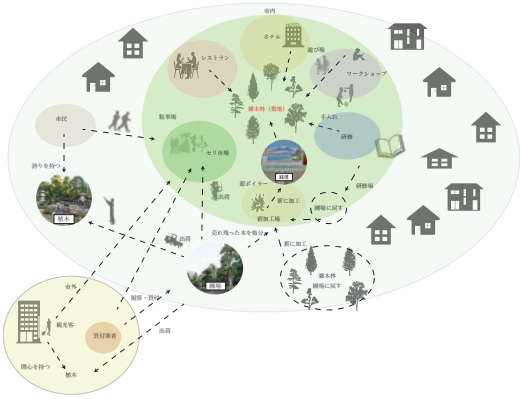


図４　関係図

## 4.　設計手法

### 4.1 ダイアグラム

(1)　細分化

空間を細かく雁行することで、木との距離が近い場所を多く生む。また、雁行した先に木があるような配置を行う。

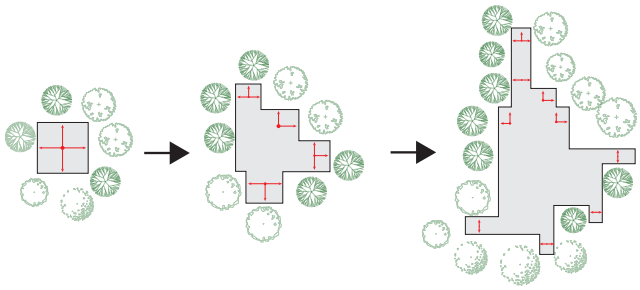


図５　ダイアグラム（１）

(2)　高・中・低のグラデーション

樹種によって高さや枝の伸び方が異なることから、樹種によって高さの操作を行う。上部では葉を目前で見られ、下部では落ち葉や木の実等の落下物や幹や根といった木の要素が見られ、高さによる環境の違いを生む。

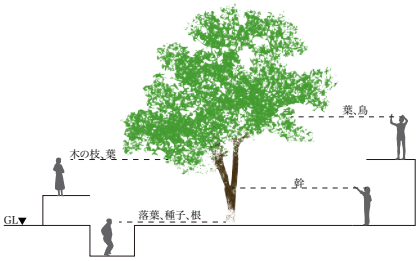



図６　ダイアグラム（２）

### 4.2 配置計画

敷地中心に位置する田んぼを回遊するように、それぞれの施設を配置する。配置する場所によって生育する樹種や、風景の違いを生み、雑木林全体を活用する。また、異なる樹種の境界線や特徴的な樹木の大木等を活かし、それぞれの諸室を配置する。

## 5.　終わりに

今研究を通し、街中には多くの街路樹、庭木、鉢木などの木が植木屋と呼ばれる人達によって植えられていることを改めて感じた。地元にそれらを支える産業があることに誇りを持ちたい。

**参考文献**

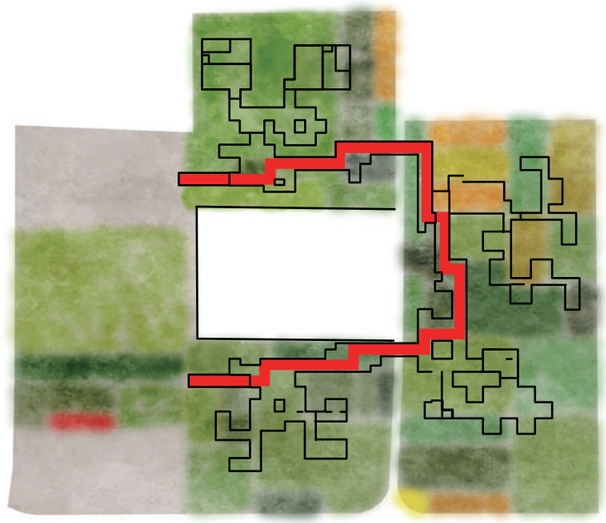
1)　「八日市場市の植木　=ようこそ植木のまち八日市場へ=」千葉県八日市場市、1990年3月発行

[redacted]

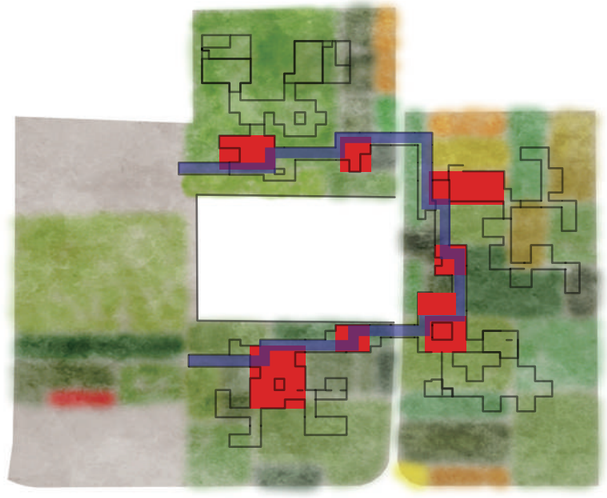
[redacted]

1FL 平面図 1/1000

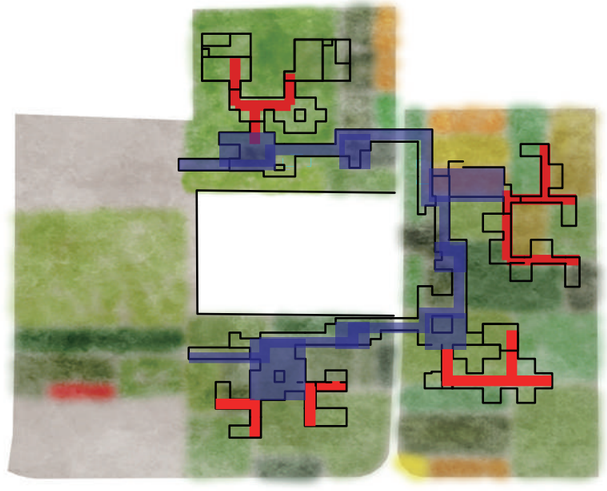
# 配置計画



1. 植生の境界に施設同士を繋ぐ動線を配置する。



2. 通路がずれて鍵の手状となった部分にそれぞれの施設のエントランスや休憩所など人々が立ち寄れる核となるような空間配置する。



3. さらに植生の境界線を利用して核となる部分から根のように各施設へと細分化していく。